

言葉を超えていつか返したい親切

岩手県 東和中学校 3年 小菅 華未

私は去年の秋ごろ、花巻市で毎年行われている海外派遣へ参加しました。十日間という長いようで短い時間の中で、私は親切な心をたくさん見つけました。

その中でも特に、自分のホストファミリーから受けた親切は、感謝しきれないほどのものでした。

私は、外国の方の家に約1週間も滞在するのはもちろん初めてで、とても緊張し、英語が全く出てきませんでした。そのせいで自分から話しかけるのが怖くなりました。でもそんなとき、ホストファミリーができるだけ簡単な英語で、聞き取りやすいようにゆっくり話してくれました。私は英語で会話ができることが嬉しくて、楽しくなって、もっともっと話したいと思うようになりました。

外国の友達ともたくさん話せて、仲良くなりました。それは、ふつうにいつも通り会話をしたいのに、私にもわかるよう我慢してくれていたホストファミリーのおかげだと思っています。私は不安や緊張なんて飛んで行って、とてもとても楽しい、一生忘れられない思い出になりました。

さらに、ホストファミリーの方からも「日本の文化を教えてほしい」と言われたので、私は習字を教えて、いっしょにやりました。私が勉強になるだけでなく、日本のことも共有できて嬉しかったです。次にまた同じような機会をいただけたら、もっとたくさんの日本の文化を共有したいと思いました。

そして別れするとき、号泣していた私に、ホストファミリーが、

「私たちは家族なのだから、必ずまた会える」

と言ってくれたのです。本当に家族のように接してくれたホストファミリーには、感謝してもしきれません。ホストファミリーは私に、

「話す言葉は違っても、笑顔が言葉のかわりになる」

ということを気づかせてくれました。

今度、私の家に新しいホストファミリーが来たときは、親切であたたかい家族だったな、と思ってもらえるように頑張りたいです。

言葉の壁を越えて人と人がつながりあえる、ということを教えてくれたホストファミリーへの感謝は、ずっと忘れません。そして、この恩をいつか必ず返したいです。